

# 和歌山県立医科大学附属病院 泌尿器科

和歌山県立医科大学泌尿器科専門研修プログラムは泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることができるよう配慮しました。また学術的な涵養を目的とした大学院進学コース、専門研修後にはより高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、和歌山県立医科大学県民医療卒および地域医療卒を卒業し地域医療での義務年限を前提とした県民医療卒および地域医療卒コースの4つから選択することが可能です。和歌山県立医科大学泌尿器科専門研修プログラムは泌尿器科学会のホームページから閲覧が可能です(<https://www.urol.or.jp/top.html>)。また和歌山県立医科大学泌尿器科が主宰するホームページも参照してください(<https://www.wakayama-med.ac.jp/med/urourod/urourod/index.html>)。

大学病院では手術用ロボットであるダビンチが2台設置されており多くのロボット支援手術を行っています。大学以外では紀南病院において2018年よりダビンチが導入されました。



## ローテーション例

### 臨床修練コース

※ □ は学内研修



### 大学院進学コースの場合

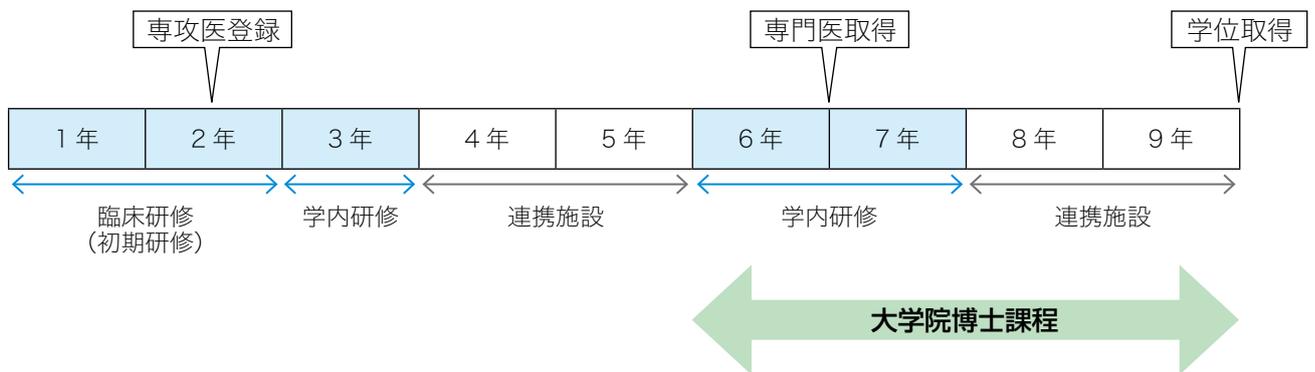
上記の研修に加え大学院へ進学する。



臨床修練コースでは原則的には3年目を学内研修とし4-5年目を研修連携施設で研修し6年目に大学病院に戻って研修します。泌尿器科の専門医は4年の研修期間が必要ですので研修期間が終了した後に試験を受けて専門医を取得することになります。7-9年目の研修に関しては学内施設もしくは連携施設での研修となります。

大学院進学コースにおいては4年目に大学院へ入学することができます。大学院の1年目(卒後6年目)は自分の専門分野を決定し研究の準備を始めますが、病棟や外来業務は従来と同様に行い専門医を取得します。本コースを選択した場合は卒後9年間で学位を取得することが可能です。

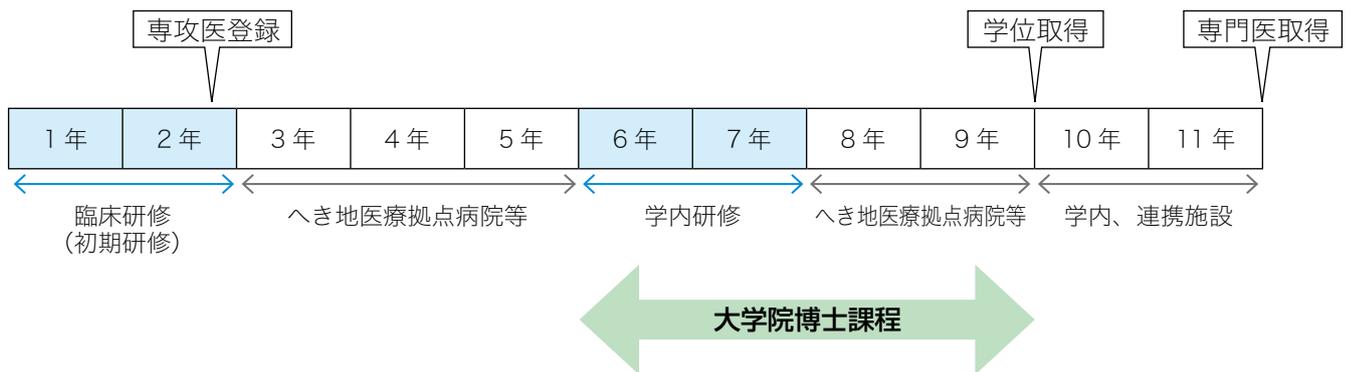
### ローテーション例 県民医療枠コース ※ □ は学内研修



県民医療枠コースでは3年目は基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院である和歌山ろうさい病院、橋本市民病院、公立那賀病院、海南医療センター、有田市立病院、ひだか病院、紀南病院、新宮市立医療センター等で研修し、6年目は学内研修を行い、専門医を取得します。7年目から9年目まではその内の1年間を学内研修、あとの2年間を地域中核病院で研修します。

希望者は大学院に入学し、最短では9年目に学位取得が可能ですが、長期履修制度も活用できます。

### ローテーション例 地域医療枠コース ※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは臨床研修（初期研修）の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で主に内科研修を行います。6、7年目には大学に戻り泌尿器科の研修を行います、8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら総合医や家庭医としてのスキルを磨いていきます。10年目からは学内または連携施設で泌尿器科の研修を行います。なお、泌尿器科専門医は11年目（泌尿器科としての研修期間が4年必要）に取得予定となっています。希望者は大学院に入学し、最短では9年目に学位取得が可能ですが、長期履修制度も活用できます。

## 研修目標

1. 専門知識：泌尿器科領域では発生学・局所解剖・生殖生理・感染症・腎生理学・内分泌学の6領域での包括的な知識を獲得する。
2. 専門技能：泌尿器科領域では、鑑別診断のための各種症状・徴候の判断、診察法・検査の習熟と臨床応用、手術適応の決定や手技の習得と周術期の管理を実践するための技能を獲得します。

## 経験目標

1. 一般的手術：各領域5例以上合計50例以上  
(1) 副腎、腎、後腹膜の手術 (2) 尿管、膀胱の手術 (3) 前立腺、尿道の手術 (4) 陰嚢内容臓器、陰茎の手術
2. 専門的な手術：1領域10例以上を最低2領域かつ合計30例以上  
(1) 腎移植・透析関連 (2) 小児泌尿器 (3) 女性泌尿器 (4) ED、不妊関連 (5) 結石関連 (6) 神経泌尿器・臓器再建関連 (7) 腹腔鏡・ロボット支援関連

## 教授からのメッセージ



### 原 勲 教授

泌尿器科は外科系の診療科になりますが手術における低侵襲化はその代表的なものです。かつては経尿道的な手術以外のほとんどは開腹手術で行われていましたが、今日では多くの代表的な手術が腹腔鏡下で行われています。さらに腹腔鏡下手術の進歩したものがロボット支援手術です。日本国内では2012年から保険診療で認められるようになり、現在では前立腺癌に対する根治的前立腺全摘除術と小径腎細胞癌に対する腎部分切除術および膀胱癌に対する膀胱全摘除術が保険収載術式として認められています。拡大された立体視野で行う手術はまるで術者自身が患者の体内に入って手術を行っているような感覚にさせてくれます。

泌尿器科の代表的な疾患として尿路結石がありますが、か

つては開腹手術が主な治療手段でした。体に傷をつけることなく体外から衝撃波を用いて結石を破碎する体外衝撃波結石破碎術（ESWL）は1984年に本邦に導入されました。さらに経尿道的尿管結石破碎術（TUL）や経皮的腎結石破碎術（PNL）の進歩に伴い今日では尿路結石に対して開腹手術を行うことはほぼなくなっています。

われわれにとって一番重要な責務はこうした最新で良質な医療を県民の皆様 safely に提供することです。泌尿器科スタッフは全員一丸となって目標を達成すべく日夜診療に励んでいます。

大学病院のもう一つの大きな責務は次世代を担う泌尿器科医の育成です。和歌山県下の主な病院の泌尿器科医はほぼ和歌山県立医科大学出身の医師で占められています。大学病院だけが高度な医療を提供するのではなく地域においても良質な医療を提供できるよう優秀な泌尿器科医を育成するのも大学の大事な役割です。ここ数年は泌尿器科を志す若い先生が和歌山県立医科大学に集まって来ています。泌尿器科に興味がある研修医の先生の参入を心から待っています。



## 当科で取得可能な専門医と指導体制

研修施設	泌尿器科指導医	泌尿器科専門医	腹腔鏡技術認定医
和歌山県立医科大学附属病院	4名	9名	3名
和歌山ろうさい病院	1名	2名	1名
公立那賀病院	2名	2名	1名
橋本市民病院	2名	2名	1名
海南医療センター	1名	1名	1名
有田市立病院	1名	1名	0名
ひだか病院	1名	1名	0名
紀南病院	2名	2名	2名
新宮市立医療センター	1名	2名	2名

2021年4月現在、当教室の医師は原教授を含め16名であり、その3/4以上が卒後10年目に満たない若手医師で構成されています。若手医師中心の医局ではありますが、Da Vinciを用いたロボット手術や腹腔鏡手術、腎移植手術も含めた多種多様な手術に加え、外来・病棟業務、学会活動や論文執筆など、様々な業務を幅広く行っています。そのため、若手医師が得られるチャンスも非常に多く、研修医の先生にも積極的に手術に参加してもらったり、定型的な手術であれば若手医師が手術執刀医を務めることも少なくありません。早い時期から外来診療に従事することも可能です。また、臨床のみならず、学会活動にも積極的に参加でき、論文執筆や基礎研究についても上級医師から熱心な指導を受けることが可能です。努力すればするほど『若手医師もチャンスが得られる環境』であることは、学生や研修医の皆さんにとっても大きな魅力なのではないでしょうか。

また『教授から若手医師まで非常に仲の良い医局』であることも大きな魅力の1つです。他大学と比較するとやや小規模な教室かもしれませんが、原教授を中心とした団結力は他施設には負けない自信があります。飲み会ではいつも原教授の周囲が楽しく盛り上がることから、当教室の魅力を感じて頂けるのではないのでしょうか。最近はコロナの影響でそういった機会を持てませんが、また楽しく集まれる日を楽しみにしています。

高齢化社会が進み、泌尿器科のニーズは増える一方です。特に和歌山では、他の科に比べても泌尿器科医師はまだ不足しており、逆に多くのチャンスが得られる環境にあると思います。この記事を読んで、学生や研修医の皆さんに少しでも泌尿器科に興味を持って頂き、当教室で共に切磋琢磨できる日が来ることを心より楽しみにしています。